39

楠本技研 株式会社

工業用特殊材質を加工し、宝飾品を試作開発

宝飾品の「クロネコハート」

放電機による微細加工が得意

銀行の元支店ビルに入居した本社

事業内容 下請けからの脱却を目指し、自社製品開発に取り組む

焼結ダイヤモンドやセラミックス、インコネル、タングステン、チタンなど耐摩耗用途の特殊な難削材の微細加工を得意とする。機械がスライドする摺動（しゅうどう）面の加工なども含め、1品ごとにオーダーメイドで受注している。加工設備は形彫りや深穴の放電加工機が中心。ほかにフライス盤や旋盤、研磨機なども保有している。

昭和29年に初代社長が創業し、機械や金型の製造、部品加工を始めた。楠本俊彦社長は初代の長男で、平成6年に社長に就任した。楠本社長は「今は本業で忙しいが、一次下請けのため大手の顧客の動向に左右されやすく、将来はどうなるかわからない。下請け体質から脱却を図るため、自社製品の開発も検討してきた」と、目標を示す。

補助事業 難削材の微細加工技術を新事業の開拓に生かす

経営課題である下請け体質からの脱却を図るため、「平成25年度中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」の「ものづくり補助金」では、工業用特殊材質を使用した装飾品の試作開発事業に取り組んだ。装飾品は機械加工業と異なる分野だが、生かしたのは、難削材に使われる工業用特殊材質の微細加工技術。特殊材質については本業で数十年も取り扱い、加工技術も熟知している。

家族から「特殊材質でアクセサリーを作れないのか」と問われたのが、きっかけとなった。しかし、特殊材質の装飾品は他社製も含めて前例がなかった。このため何度もテスト加工を繰り返し、加工の条件や方法を確立した。ペンダントやゴルフのマーカー、時計の文字盤などを10個試作した。ペンダントは金と組み合わせた構造にするなど、高級感のあるデザインとなっている。

具体的成果 補助事業に選ばれ、長年温めていた目標が実現

楠本社長は「特殊材質を装飾品に加工する技術は、他社にはうまくできない」と、独自性に自信を示す。得意の放電加工に研磨も加え、仕上げている。1品ごとに手作業で製作した。ペンダントだけではないので、男女を問わない装飾品や宝飾品として、一般にはないオリジナル性にひかれる顧客のニーズを開拓できると想定している。技術には自信があるので、デザイン次第で事業化のチャンスがあると予想している。楠本社長が展示会などで詳しく調べても、同様な装飾品はマーケットに存在しなかったという。

オリジナルであることを確信し、他社との競合がない独自製品として、大阪府中小企業団体中央会に補助金を申請した。試作したことを外部にはまだあまりオープンにしていないが、口コミで話題が広がっているという。特許取得や商標登録も検討している。装飾品を製作する構想は8年も前から温めていたが、本業が多忙でなかなか前に進まなかった。しかし、思い切って補助金を活用したことで、外部から事業化の納期を強制的に決められ、これを機会に集中して長年の構想実現に取り組むことができた。「大阪府中小企業団体中央会に、背中を押してもらった」と感謝する。

今後の戦略 ウェブサイトを開設、来年1月には国際宝飾展に出品

楠本社長は「特殊材質の装飾品事業を一人前にするには3年から5年かかるだろうが、当社の柱の事業に育てたい。実際には何十年先になるか分からないが、本気で取り組みたい」と、意気込む。本業では高度な加工技術を求められるが、顧客の図面に従い加工すればよく、コストダウンと納期の競争が厳しい。しかし、独自の装飾品を製作するには自社でデザインし、自社で設計しなければならない。仕事を待っているだけの下請けに比べると創意工夫が必要で苦労も多いが、それにより経営にはやりがいや夢、ロマンが生まれる。次の世代に経営のバトンタッチを図るためにも、後を継ぎたくなる企業の魅力を高めることが必要で、なによりも夢が欠かせないと考えている。

主な課題は装飾品の認知度向上と、販路の開拓。まず、平成29年1月には、東京で開催される「国際宝飾展」に出品する。平成28年中には自社のウェブサイトを立ち上げ、アピールを高める。デザイン面では、装飾関係者からアドバイスを受け、時計の文字盤を試作した。「カスタム文字盤を好む人を増やしたい。依頼があれば、さまざまなデザインを客と相談して制作したい」と、意欲を示す。

楠本技研 株式会社

代表取締役社長　楠本 俊彦

〒599-8265　大阪府堺市中区八田西町2−17−56

TEL. 072−278−1736

FAX. 072−201−2736

資本金／10,000千円

従業員／5名

企画力　小ロットOK　オンリーワン技術　量産OK　海外対応　試作OK　連携力

知名度を高めてニーズを開拓し、将来の事業の柱に育成

代表取締役社長 楠本 俊彦

切削工具などの高硬度化に使用される工業用特殊材質を加工し、装飾品の消費財を試作開発しました。アピールにも努め、魅力がわかる人のニーズを開拓し、将来の事業の柱に育てたいと思います。

取材を終えて

固有の美しさやデザイン性に磨きを

この素材は耐摩耗用の素材としては特殊ではない工業用材だが、一般の消費者にとってはなじみが薄い。ここに着眼し、装飾品を試作したアイデアとオリジナル性が優れている。固有の美しさやデザイン性に磨きをかければ、ユニークな宝飾品として、これから人気が高まるかも知れない。